

記者はお母さん 新聞創刊

県内8エリア 子育ての悩み共有



育児中の友たちと新聞を紹介するお母さん記者ら(佐賀市役所で)

子育てに励む県内在住の母親たちが「お母さん記者」となり、取材や執筆、編集などを手がける子育て情報紙「月刊お母さん業界新聞」の地域版が今月1日、県内8エリアで一斉に創刊した。母親たちは「新聞を通して悩みを共有し、地域の子育て環境の改善にもつなげたい」と話している。

エッセーや生活情報

業界新聞は、全国の母親でつくる組織「お母さん大学」が各地で地域版を創刊。現在、約50地域で計約350人のお母さん記者が活躍している。今回、佐賀、嬉野両市、みやき町に住む29〜39歳の子育て中の母親8人が加わり、それぞれの居住エリアで毎月150部ずつ発行する。

8人は、5か月から11歳の子ども計15人を育児中。佐賀市で7月、業界新聞全国版の藤本裕子編集長の講演を聴いた際、「私たちが

一人のお母さん記者になって、子育てへの思いを発信したい」と決意したという。

紙面はB4判の表裏2ページ。記事は、エッセーや子ども連れで立ち寄れる飲食店などの生活情報、本の紹介など様々。創刊号では、産後にうつ状態となった経験談や、言うことを聞かない子どもとの押し問答の様子など、子育ての苦悩や喜びを掲載。いずれも手書きで、手作り感にあふれている。

新聞は無料。育児中の母

親が立ち寄りやすい小児科、飲食店などに置いてもらう。来月には、鳥栖市でも新たに創刊される予定。

佐賀市高木瀬地区で発行を始めた山下千春さん(36)は「母子家庭や障害者世帯など、色々な環境にあるお母さん方に新聞作りを働きかけていく。子育てで困ったり、悩んだりした時に、お母さん同士が気軽に声を掛け合えるつながりを広げていきたい」と話している。問い合わせは、山下さん(0952・230・4960)へ。